

発行日 2015.12.2

第200号 画像NEWS愛宕地区社協 発行元 広報部

件名 **地域ケア一会議**

12月1日(火) 主管 福祉対策部

愛宕地区は岩国市の中でふれあい・いきいきサロンの活動が一番多い地域[96団体中16団体が愛宕地区]ですが、本日のケア会議では改めて岩国市の高齢者の現状を知り、これからの介護予防地域づくりをテーマに岩国市社会福祉協議会2名、岩国市地域包括支援センター3名の皆さんの出席の下、参加者20名の皆さんが意見交換をしました。

岩国市の高齢者は年々増え続けており、平成26年度は5万人弱(32%)という現状です。その内1人暮らしの高齢者も増えており(6千人弱)、特に75歳以上の2人暮らしの高齢者世帯数が増えており高齢者単身世帯が増えているというデータが示されました。

その一方、高齢者1人当たりの担い手(20歳から64歳)はどんどん減ってきており、昭和40年には担い手10人に高齢者1人、H25は担い手1.7名が高齢者1人となっています。今後担い手の数が更に減っていく中でも高齢者が元気で長生き、健康寿命を延ばしていく為には若い担い手に頼っていくことだけでなく、地域の皆さんへの介護や生活支援などコミュニティづくりをしていかなければなりません。来年4月には制度として要支援対象者への受け皿の垣根が低くなり地域の支援がより望まれていくことになります。

そのような中で今後は健康な高齢者が自分のキャリアを地域の為に役立てるという支援「高齢者ボランティアグループ」の地域での誕生が待たれています。すでに岩国市では15グループの登録があり愛宕地区でも1グループの登録ですが、更にその数を増やしていきたいとの投げ掛けがあり、作り方、助成についての説明を受けました。

出席者は3つのグループに分かれ今回の投げ掛けを受けて各地区の現状や問題などを出し合って今後について話し合いました。

新たなグループの立ち上げには何事をやるにもリーダーとなる人がなかなかいないなどの問題点もあり、導入の糸口にはやはり行政担当の皆さんの力が必要だとの意見もありましたが、皆さんが共に理解を深め宿題として持ち帰っていかれたと思います。

「自分が住んでいる地域が家族」、そんな気持ちを持って暮らすことが出来る場所づくりがあちこちに出来ていくことを期待したいと思いました。

